

平成 22 年度 食事由来の化学物質摂取量推計調査（概要）

1 目的

化学物質のヒトへのばく露は、大部分が食事を介していると考えられている。近年、食品の安全性についての消費者の関心は高まっており、それは食事の中の化学物質についても同様である。化学物質のヒトへの健康影響は、個別の食品中の含有量だけでなく、一日に摂取する総量として評価することも必要である。

そこで、マーケットバスケット方式により、都民の食事を介した化学物質の一日摂取量を調査した。

今年度は、平成 10 年度より調査を継続しているダイオキシン類、平成 17 年度から調査を開始した P C B、水銀、メチル水銀、カドミウム、平成 18 年度から調査を開始した鉛に加えて、今年度新規項目として内分泌かく乱作用が疑われる物質のうちビスフェノール A を対象とし、調査を実施した。

2 調査方法

(1) 試料

マーケットバスケット方式により食事試料を調製し、分析した。

都内で購入した食品（97 種類 410 品目）を「平成 20 年 東京都民の栄養状況」における「食品群別摂取量」に基づき、13 食品群に分類し調理し、飲料水を含む計 14 食品群を試料とした。

(2) 分析対象物質

ア ダイオキシン類

PCDD 及び PCDF : 29 種、コプラナー PCB : 12 種

イ P C B

ウ 重金属

水銀、メチル水銀、カドミウム、鉛

エ 内分泌かく乱作用が疑われる物質

ビスフェノール A

(3) 分析機関

東京都健康安全研究センター

(4) 一日摂取量の推計方法

食品群ごとの検出値に摂取量を乗じ、14 食品群を合計し、一日当たりの摂取量を求めた。また、大人の体重を 50kg とした場合の体重 1 kg 当たりの一日摂取量を求めた。

3 結果及び考察

(1) 分析結果(表 1)

ア ダイオキシン類

全ての食品群から検出された。体重 1 kg 当たりの一日摂取量は 0.78pg-TEQ/kg・bw/day であ

った。平成 20 年度増加したものの今年度再び減少した。都民の一日摂取量はこれまで同様、「ダイオキシン類対策特別措置法」における耐容一日摂取量を下回った。ダイオキシン類摂取量に占めるコプラナー P C B の摂取割合は、64.67%であった（WHO-2006 TEF を使用）。

イ P C B

魚介類から検出された。体重 1 kg 当たり一日の摂取量は $0.013 \mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$ であり、旧厚生省通知「食品中に残留する P C B の規制について」における暫定一日摂取許容量を下回った。

ウ 総水銀及びメチル水銀

魚介類及び肉・卵類から検出された。体重 1 kg 当たり一日の摂取量は総水銀で $0.238 \mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$ 、メチル水銀で $0.152 \mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$ であり、メチル水銀については厚生労働省「妊婦への魚介類の摂取と水銀に関する注意事項の見直しについて」における耐容一日摂取量を下回った。

エ カドミウム

14 食品群中 12 食品群から検出され、体重 1 kg 当たり一日の摂取量は $0.317 \mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$ であった。内閣府食品安全委員会で示された暫定週間耐容摂取量を下回った。

オ 鉛

14 食品群中 12 食品群から検出され、体重 1 kg 当たり一日の摂取量は $0.204 \mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$ であった。FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議で示された暫定週間耐容摂取量を下回った。

カ ビスフェノール A

全ての食品群で検出されなかった。

(2) 考察

今回の調査では、都民の摂取量は国等が示す基準等がある物質においてはこの値を下回っていた。総摂取量に対する寄与率が最も高率であった食品群は、物質別に、ダイオキシン類、P C B、総水銀、メチル水銀では「魚介類」、カドミウムでは「米類」、鉛では「その他野菜・茸・海藻類」であった。

4 まとめ

特定の食品に偏らないバランスの良い食生活を心掛けることで、化学物質による健康影響リスクを低減することができる。ヒトへの健康被害を未然に防止する観点から、今後も食事由来の化学物質摂取量推計調査を継続し、食事からの化学物質摂取状況の把握に努めていく。

表 1 分析結果（大人・一日・体重 1kg 当たり）

(ND=0)

分析対象物質		一日摂取量
ダイオキシン類	(pg-TEQ/kg·bw/day)	0.78
P C B	($\mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$)	0.013
総水銀	($\mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$)	0.238
メチル水銀	($\mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$)	0.152
カドミウム	($\mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$)	0.317
鉛	($\mu\text{g}/\text{kg}\cdot\text{bw}/\text{day}$)	0.204
ビスフェノール A	(ng/kg bw/day)	ND

表2 ダイオキシン類の一日摂取量の推移 (大人・一日・体重1kgあたり)

調査年度	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	22
摂取量	3.16	1.92	1.65	1.08	1.39	1.36	1.12	1.34	1.29	1.23	1.32	0.78

: 10年度はコプラナーPCB3種のみ

: WHO-TEF (2006) 適用、ただし10年度のみWHO-TEF (1998) 適用

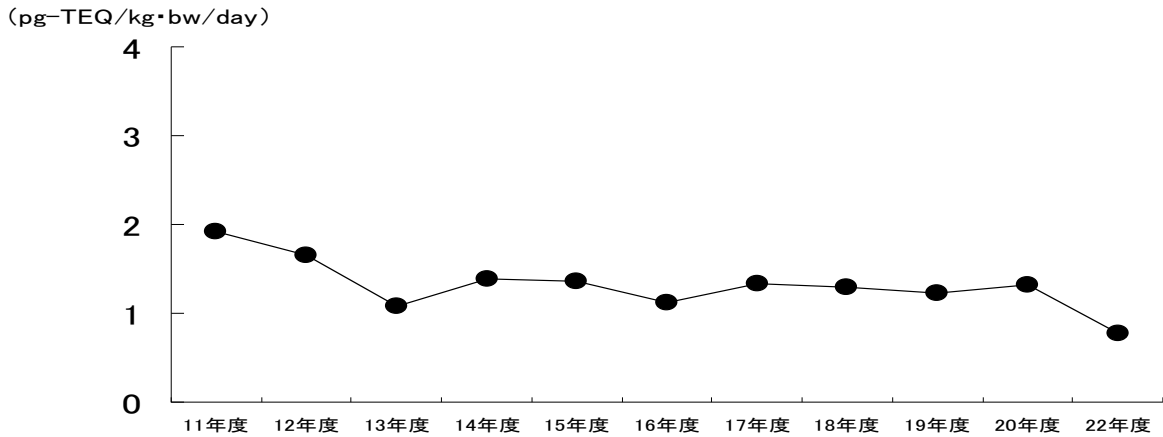


図1 ダイオキシン類の一日摂取量の推移 (大人・一日・体重1kgあたり)

WHO-TEF (2006) 適用

平成10年度はコプラナーPCB3種のみ結果であるため略

表3 耐容摂取量等及び評価機関等

分析項目	耐容摂取量等			
ダイオキシン類	TDI	4	pg-TEQ/kg·bw/day	ダイオキシン類対策特別措置法
PCB	PADI	5	μg/kg·bw/day	「食品中に残留するPCBの規制について」 (厚生省通知 昭和47年 環食第442号)
総水銀			-	-
メチル水銀 (Hgとして)	TDI TWI	0.292 2	μg/kg·bw/day μg/kg·bw/week	「妊婦への魚介類の摂取と水銀に関する注意事項の見直しについて」 (平成17年 厚生労働省)
カドミウム	PTWI	7	μg/kg·bw/week	食品安全委員会通知 平成21年 府食第789号
鉛	PTWI	25	μg/kg·bw/week	FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議
ビスフェノールA	TDI	0.05	mg/kg·bw/day	欧州食品安全局(EFSA)

TDI: 耐容一日摂取量、PADI: 暫定一日摂取許容量

TWI: 耐容週間摂取量、PTWI: 暫定週間耐容摂取量

<用語説明>

用語	
ダイオキシン類	ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン (PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF) 及びコプラナーPCB (Co-PCB) の総称
PCB	ポリ塩化ビフェニルの略
コプラナーPCB	PCDDとPCDFと類似した生理作用を示す一群のPCB類
水銀	元素記号はHgで、常温、常圧で液体として存在
カドミウム	元素記号はCd
鉛	元素記号はPb
ビスフェノールA	主にポリカーボネート、エポキシ樹脂と呼ばれるプラスチックの原料として使用される物質
pg (ピコグラム)	1兆分の1グラム ($1g = 10^{12}pg$)
ng (ナノグラム)	10億分の1グラム ($1g = 10^9ng$)
μg (マイクログラム)	100万分の1グラム ($1g = 10^6μg$)
mg (ミリグラム)	1千分の1グラム ($1g = 10^3mg$)
kg・bw/day	一日当たり体重1kg当たりの量
kg・bw/week	一週間当たり体重1kg当たりの量
TEQ (毒性等量)	毒性等価係数(ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(2,3,7,8-TCDD)の毒性を1として、他のダイオキシン類の仲間のそれぞれの毒性の強さを換算した係数)を用いて、ダイオキシン類の毒性を総計した値を示す単位
マーケットバスケット方式	通常の食生活において、特定の物質が食事を介してどの程度摂取されているかを把握するための調査方法。食品摂取量のデータに基づき、全食品を14食品群に分類し、通常行われている調理方法に準じて調理して試料を作成する。 試料調製の際、各食品群ごとに複数の品目を混合しているため、検査値は既に平均化されたものである。 そのため、結果には、最大値、最小値はない。
耐容一日摂取量、耐容週間摂取量	ダイオキシン類など、意図的に使用されていないにもかかわらず、食品に存在したり、食品を汚染したりする物質に設定される。 人がある物質の一定量を一生涯にわたり摂取しつづけても、健康への悪影響がないとされる一日(一週間)当たりの摂取量。